



殻を破り次の世界へ

校長室便り

R5年度 No.1

4月11日発行



殻を破り次の世界へ！ 失敗の数だけ 成長できる

土成中学校の教育目標は、「大志の実現に向けて歩み続ける人間の育成」です。この目標を達成するための1年間の重点目標を「殻を破り次の世界へ！ 失敗の数だけ 成長できる」としました。それは、3月の修了式で、1、2年生の皆さんに次の話をしたからです。この1年間、皆さんがたくさんの殻を破り成長できることを願っています。なお、校長室便りのタイトルも重点目標を踏まえています。

今週の水曜日、ワールドベースボールクラシックの決勝があり、日本チームが見事に優勝しました。日本チームの選手一人一人が、損得を考えず自分の身を削りながら、役割を果たし、最高のチームワークで優勝しました。私や皆さんを含め、日本中を感動の渦に巻き込みました。

どの試合も素晴らしかったのですが、私は、野球中継の合間に流れていた、大谷翔平選手、出演の「次の世界へ、失敗の数だけ、成長できる」というコマーシャルに感銘を受けました。このコマーシャルでは、「三振した数」や「ヒットを打たれた回数」、「失点数」など、プロになってからの大谷選手の失敗の数字を人々が口々に述べ、繋いでいくもので、最後の場面で、少女が「二刀流が無理だと言われた数は数え切れない」と述べ、最後に大谷選手が登場して「でも、二刀流が無理だと思ったことは一度もない」と言うものです。

大谷選手同様、皆さんの可能性は、無限です。自分で限界を決めずに、失敗してもあきらめず、私が4月から皆さんにお願いしているように、自分の殻をどんどん破ってほしいと思います。

皆さんの可能性を最大限に伸ばすために、大谷選手の生き方から学ぶことはたくさんありますが、特に次のことを皆さんに伝えたいと思います。

それは、大谷選手が自分には厳しく、人に対しては思いやりや優しさを持っていることです。今回の試合でも大差で勝った中国チームに対して、試合後尊敬の思いを持って礼儀正しく接していましたし、チェコの選手が試合中にサインをほしいとお願いすると、試合終了後、わざわざサインを届けたりしました。また、グラウンドに落ちているゴミを見つけるとさっと拾って、ポケットに入れることも続けています。

人は成功して有名になると、他人を馬鹿にしたり、偉そうにしたりしがちです。そういう人をよく見かけます。しかし、偉そうにしたり人を馬鹿にしたり、人に迷惑をかけて平気であったりする人は、周りから相手にされず、信用をなくしていきます。いつの間にか、表舞台から消えていきます。

大谷選手が誰からも愛され、二刀流を続けることを支持されているのは、彼の人間性の素晴らしさからです。生徒の皆さん、振り返って自分はどうでしょうか。自分には厳しく、人には優しくあった1年間だったでしょうか。自分勝手に、自分には甘く、人には厳しい、迷惑をかけた1年間ではなかったでしょうか。次の1年間は、自分の殻を破って行くためにも大谷選手のように、人間性を磨いていく1年にしてほしいと思います。